

江戸時代の高級麻織物 独自ブランド

「木津晒」裏付ける史料

史料が乏しく、存在が不確かだった江戸時代の高級麻織物「木津晒」について、現在の木津川市での生産を裏付ける史料を市民グループ「木津の文化財と緑を守る会」が見つけた。相模郡は奈良の高級麻織物「奈良晒」の産地とされてきたが、独立した木津ブランドもあつたといひ、同会は「調査研究が進むきっかけになつてほしい」と期待する。



「木津晒」について解説した「木津の文化財と緑を守る会」の会報
(木津川市木津)

同会40周年を記念した会報で報告した。同会の岩井照芳会長(70)は子どもの頃、家族から「木津晒があつた」「判場で判を押して売られていた」との話を聞いた。しかし、木津晒の記録は旧木津町史に短い記述があるのみで、判場の記録はこれまで確認されていなかった。同会が、かつて木津地域の有力者だった家が、さまざまな事柄を記録していた古文書を調べたところ、徳川幕府の許可を得て木津晒に税金を掛けるため、山城判場で判を押していたことや、かつて

木津川 市民グループが報告

てその家が山城判場を取り仕切っていたこと、奈良晒の側から山城判場を合併支配する旨の訴訟を起されたことが記されていた。

これまで、奈良晒の技術が明治期以降に相模木綿へと受け継がれたとされてきたが、木津晒の技術が継承された可能性もある。

府立山城郷土資料館(同市山城町)は、「木津晒が独立したものだつたことが分かる。木津で晒の産業が盛んだったことを示す貴重な資料」とする。

岩井会長は「江戸時代の百科事典『和漢三才図会』にも晒布の産地として和州奈良、羽州最上と並んで山州木津との記述がある。実態に迫りたい」と話している。

会報は千円(送料込み)で100部販売。同会090(5129)8908。
(逸見祐介)